

2026年の啓蟄（けいちつ）は3月5日です。

啓蟄（けいちつ）とは、土中で冬ごもりをしていた生き物たちが目覚める頃のこと。

「啓蟄」の「啓」という漢字には、「開く」や「開放する」といった意味があります。

また、「蟄」は「虫が土のなかなどに隠れている様子」を指す漢字です。

これらをあわせることで、「土に隠れていた虫たちが出てくること」を表現しています。

つまり、「寒い時期に冬ごもりをしていた虫たちが、次第に暖かくなってきたことによって活動を開始するころ」のことです。

生き物たちは久しぶりに感じるさわやかな風と、麗らかな春の光の中で生き生きとしています。



春に鳴る雷を、「春雷（しゅんらい）」「春の雷（らい）」などと呼びます。

夏と違い、すぐに鳴りやむことが多く、鳴ってもすぐにおさまるたとえにも使われました。

特に、啓蟄の頃に鳴る春雷を、「虫出しの雷（かみなり）」、略して「虫出し」などといいます。

この雷の音にびっくりして、虫たちが飛び出してくると考えたのでしょう。

春雷は、春を告げる号砲ととらえることもできるかもしれません。

故郷（ふるさと）やどちらを見ても山笑ふ

正岡子規

子規は四国の松山出身。この歌を詠んだ当時は東京にいて、結核と闘っていたようです。

「春だなあ。故郷の松山の山々は、どこも芽吹いて、賑わっているだろうな」といった心情を詠んだようです。

春の山を「山笑う」と形容することがあります。

冬の眠りから覚め、芽吹き始めた華やかな山の様子を表しています。

